鳥取県弓が浜半島で確認したボタンウキクサの越冬

神 谷　　要*・國 井 秀 伸**

Kaname Kamiya and Hidenobu Kunii : Overwintering of *Pistia stratiotes* L. in Yumigahama Peninsula, Tottori Prefecture, Japan

熱帯・亜熱帯に広く分布するボタンウキクサ（*Pistia stratiotes* L.）は，鑑賞用として日本に持ち込まれ，沖縄では越冬している（大滝・石戸，1980）．山陽地方では，1991年に広島県東広島市において大繁殖をしていることが下田（1992）により報告され，岡山県においては夏期にしばしば見ることができるという（安藤義範，私信）．ここでは，山陰地方においても野外でボタンウキクサを発見しその越冬を確認したので報告したい．

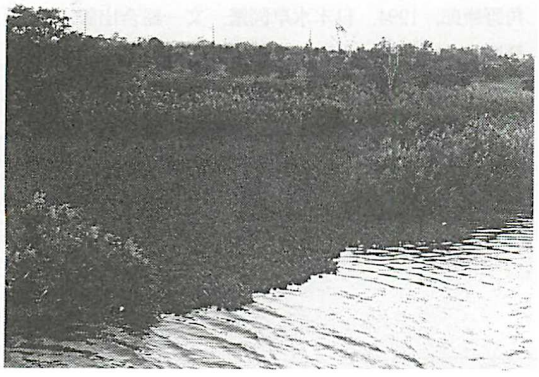

図1（上）　ヨシの入り江に生育するボタンウキクサ（1994年10月30日撮影）．
図2（下）　大型の葉を形成したボタンウキクサ（1994年10月30日撮影）．

ボタンウキクサが生育しているのをはじめて見つけたのは1994年10月24日だった．発見場所は鳥取県弓が浜半島（境港市小篠津）の日本海に注ぐ水路の河口部で（海岸までの直線距離約100メートル），ボタンウキクサはこの水路およびヨシに囲まれた小さな入り江一面に繁茂していた（図1）．

なお，この水路にはウキクサとオオカナダモも見られた．

ボタンウキクサの大きさは，一般的に葉の長さ2～15cm，葉の幅3～8cmとされているが（大滝・石戸，1980），この年に確認したものは最大では葉の長さ30cm，葉の幅は15cm近くあった（図2）．水質は河口部でありながら塩分濃度は0.1‰と低く，全リン・全窒素量はきわめて高い値を示した（表1）．この高濃度の栄養塩と，平年に比べて高く長かった1994年夏の気温と日照時間が，熱帯原産のこの水草を繁茂させたと考えられる．このボタンウキクサは今年（1995年）も同じ場所で見られたが，

表1　ボタンウキクサが生育していた水路の水質（1994年10月24日測定）

pH		7.4
電気伝導度	(μs/cm)	310
COD	($KMnO_4$ mg/l)	16.00
PO_4—P	(μg/l)	744
アルカリ度	(meq/l)	1.95
クロロフィルa量	(μg/l)	4.38
全窒素	(ppm)	3.02
全リン	(ppm)	0.85
有機炭素量	(ppm)	3.9
塩分濃度	(‰)	0.1
水温	(℃)	19.4

*米子水鳥公園，**島根大学汽水域研究センター

植物体の大きさは昨年ほどは大きくなく，また植被もヨシの生育する入江の周囲に限られていた．付近のガソリンスタンドの従業員に尋ねたところ，2年前から気がついていたとのことだった．これらのことから，ボタンウキクサは，この場所で少なくとも二回の冬を越していると考えられる．かつてのホテイアオのように，ボタンウキクサも今後各地に分布域を広げていく可能性が大きい．今後の動向が注目される．

引用文献

大滝末男・石戸忠（1980）日本水生植物図鑑．北隆館．147 p

下田路子（1992）西条盆地（広島県）のボタンウキクサ．水草研究会会報 46：5.

〈文献リスト 1993—94 補遺〉

尾崎保夫・阿部 薫，1993．植物を活用した資源循環型水質浄化技術の課題と展望—潤いのある農村景観の創出を目指して— 用水と廃水 35（9）：771-783.

笠井貞夫，1994．印旛沼の水草の変遷．印旛沼—自然と文化 創刊号：31-37.

笠井貞夫，1994．ナガエツルノゲイトウの出現．印旛沼—自然と文化 創刊号：39-40.

上赤博文，1994．佐賀平野のクリークの植物 その1．佐賀の植物（30）：35-38.

栗原智明・白井伸和・渡辺寛，1994．石川県加賀地方各地で危急種ミズアオイの生育を確認．植物地理分類研究 42：132.

貞松光男，1994．佐賀市兵庫町に出現したオニバスについて．佐賀の植物（30）：19-20.

谷本忠芳，1993．クワイ（*Sagittaria trifolia* L.）の品種内及び品種間交雑後代における形態形質の変異．育雑 43：613-623.

千葉和夫・川島長治，1994．八郎潟における水田雑草コウキヤガラの生態と防除に関する研究．雑草研究 39：153-159.

中井三従美，1994．知多半島のため池の現況．ため池の自然（20）：7-9.

Shimmen, T., 1994. Unique after-hyperpolarization accompanying action potential in *Chara globularis*. J. Plant Res. 107: 371-375.

Suge, H. & T. Kusanagi, 1994. Ethylene and carbon dioxide in the regulation of initial growth in *Sagittaria trifolia* L. Weed. Res. Japan 39: 237-242.

Takahashi, H., T. Sato, N. G. Solomonov & B. I. Ivanov, 1994. Phytogeographic notes on some aquatic plants in Yakutia, Eastern Siberia. Acta Phytotax. Geobot. 45：111-118.

〈文献リスト 1995—（1）〉

相崎守弘・中里広幸・皆川忠三郎・朴 済哲・大橋広明，1995．水耕生物ろ過法と酸化池の組み合わせによる下水処理水の高度処理．用水と廃水 37：892-899.

荒金正憲・辻 寛文，1995．大分県におけるオニバスの産地．大分県植物研究会会報「大分県の植物」（5）：17-21.

江成敬次郎・鈴木 淳，1995．水生植物（マコモ）による水質浄化．環境技術 24：226-230.

大沼淳一，1995．沈水性植物群落による河川浄化．環境技術 24：397-401.

大野景徳，1995．八千代市の新川にトウビシ大繁殖．千葉生物誌 44：74-75.

岡島一允，1995．豊中にオニバスが生育する．近畿植物同好会会報（64）：13.

角野康郎，1995．日本の水草研究—その現状と課題—植物地理・分類研究 43：9-14.

上赤博文，1995．田手川の植物群落と植物相．佐賀自然史研究 1：5-16.

北野一夫，1995．有田・海草地方の水生植物調査．くろしお（南紀生物同好会）（14）：14-17.

國井秀伸，1995．汽水域における水生植物の多様性について．日本海水学会誌 49：136-139.

國井秀伸・佐藤あすか，1995．宍道湖および斐伊川河口